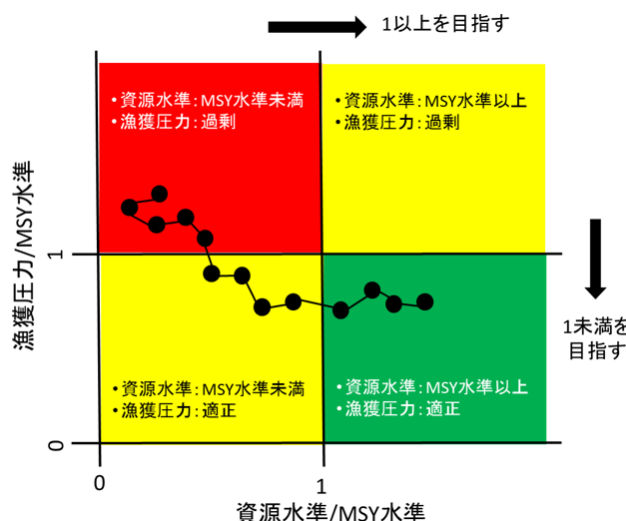


要約表ならびに総括表の資源水準・資源動向の扱いについて

「国際漁業資源の現況」では、これまで、対象とする全ての魚種系群について、国際的な資源評価の結果とは別に、「我が国周辺の水産資源の評価」にならい国内の基準に従って判定した3区分の資源水準と資源動向についても記載してきました（資源水準を、過去20年程度以上の資源量、漁獲量、指数等の推移から「高位、中位、低位」の3段階に区分、資源動向を同じく過去5年間の推移から「増加、横ばい、減少」に区分）。

しかし、国際漁業資源を対象とした地域漁業管理機関（RFMO）等における資源評価では、各種の資源評価モデルを導入し、最大持続生産量（MSY）等の基準値をベースに資源の状態や漁獲の強さを評価している魚種系群が多くを占めています（図）。また「我が国周辺の水産資源の評価」においても、従来の3区分の評価からMSYをベースとした国際水準の評価手法への移行が進みつつあり、3区分の評価をとりやめた魚種も増えています。



このような状況を踏まえ、令和5年度の「国際漁業資源の現況」からは、従来の3区分による資源水準と資源動向の項目を、要約表ならび総括表から廃し、MSY等をベースとした評価が行われている魚種系群については、その評価結果を、資源の状態の項に記載する形に変更しました。

なお、MSY等をベースとした評価が行われていない魚種系群については、引き続き3区分による評価を継続し、その結果については、資源状態の項に記載して参ります。